

新潟県

平成元年

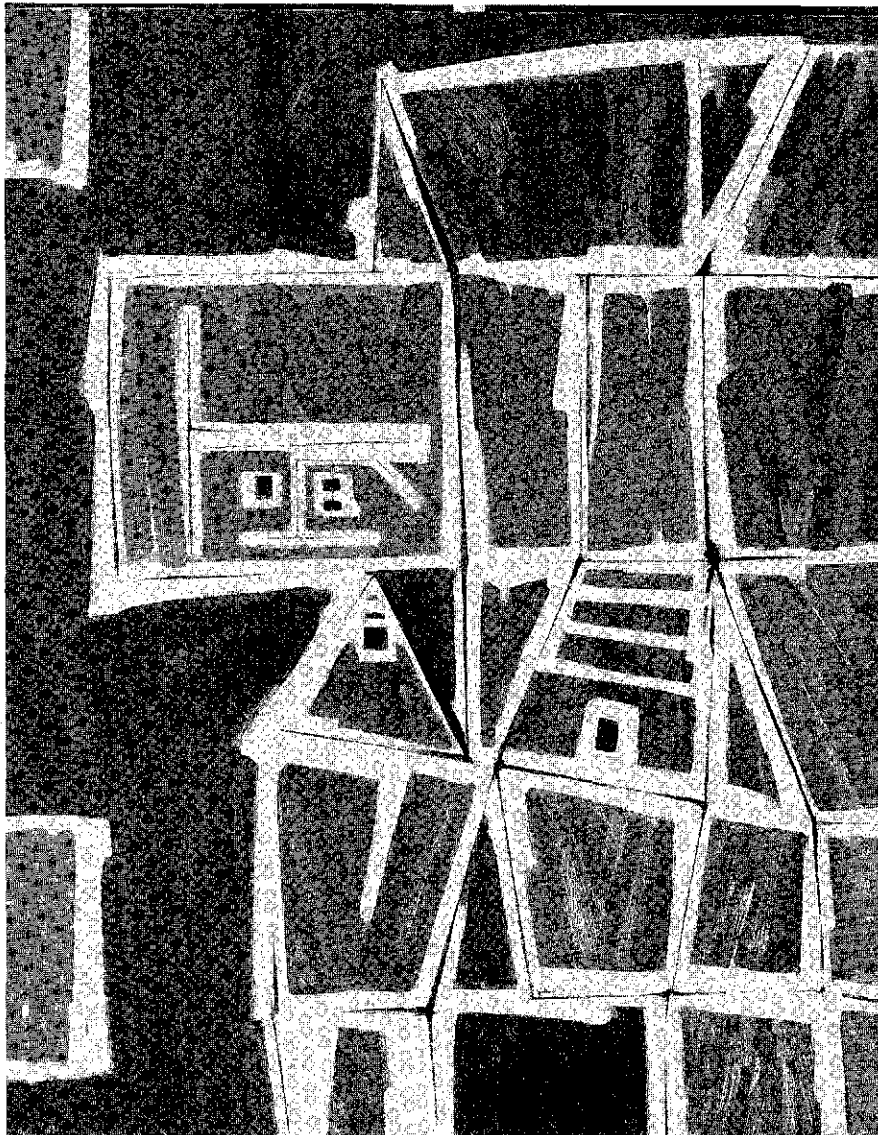
公民館月報

2月

第432号

特集 福祉は教育によって支えられる

—— 高齢者福祉の問題と公民館 ——



阿部展也「人間」

1955年制作
116.5×91cm
油彩キャンバス
新潟県美術博物館蔵

阿部展也(1913～1971)は本県五泉市出身、戦前より前衛美術のパイオニアとして活躍。戦後は各種国際展等に出品。

この制作の4年後、1959年ローマに移住、幾何学的抽象画の秀作を次々と発表。1971年ローマで客死。

公民館職員研修終わる

軌道に乗った主催研修

去る11月30日、12月1日の二日間に行われ、当県公連主催の公民館職員研修が長岡市中央公民館を会場に実施された。

主題は「学習要求のとらえ方生かし方」とし、昨年と同様に演習を主体とした特色ある研修

で受講者の好評を博した。

なお、特別講義として、上越市社会福祉事務所の家庭奉仕員井上千津子氏から「社会福祉と公民館」の講義題で講義をうけ、深い感銘を受けた。

(講義要旨は四・五面に掲載)

受講者総数二十六名(うち女性職員六名)。住民の学習要求のとらえ方と生かし方について、地域類型を四グループに別け、(都市型・都市近郊・町・村型)学習プログラムの立案の実際について、演習を中心とした研修を展開した。

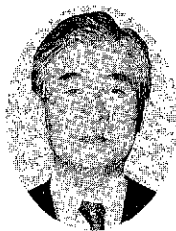


吉川教授が具体的な指導をする全体会議

講師には、新潟大学の吉川弘教授を主任講師に、新潟市烏屋野地区公民館社会教育主事伊田千代子氏(都市部担当)、柏崎市中央公民館指導員徳間助夫氏(都市近郊担当)、県社会教育主事洪谷孜氏(町

部担当)、前十日町市公民館長田村達夫氏(農村部担当)の四氏をグループ演習の講師に迎え、卓越した実践的指導を受けた。

受講対象を経験年数一年以上の公民館職員として募ったものの、一年未満のいわゆる初心者も十人参加したこともあって、グループの等質化にやや難点があったが、取り上げたテーマが日々の実践にからむものであつ



講義を担当して

主任講師 吉川 弘

今回のような県公連主催公民館職員研修は昭和六十二年度から始まりました。研修専門委員をおおせつかり、何回かの委員協議の結果、学習計画立案の手順と方法に焦点化して研修しては、ということになり、私があるための講義を担当することになった。そして昨年度の反省として、学習計画立案の手順と方法の中で最も意を用いねばなら



熱心なグループ演習

ただけに熱心な研修が繰り広げられた。

ぬのは、住民の学習要求をどうとらえ、それを学習課題として編成するかにある、とされた。今年度の専門委員会は、まさにそこに焦点化して研修しては、ということになった。昨年度にひきつづき私が研修導入の講義と演習のまとめを担当することになった。研修会当日、第一日は、住民の学習要求をとらえることの意義について

受講者の感想によると、日ごる他町村の公民館の事情を知る機会の得難い職員にとって、全県下の公民館の情報を交換することができ、自からの不明や不安と同じ質の問題を抱えている同僚の多いことを知り、安心と自信を得ることができ、貴重な(研修の)時間を得ることができた。満足していた。

当県公連の主催研修として、この種の職員研修は、始めて二年になるがようやく軌道に乗る、安定した実のある研修会にすることができた。

述べたが、この講義はあまり効果的でなかったようである。しかし、演習に入ってから熱心した。具体的に「住民の学習要求をどうとらえるか」の論議に入ったからであった。第二日、各分科会ごとの発表があった。私は参加の各人がみごとに住民の学習要求把握の手だてを身につけたことを感じとってうれしく思った。現職者の研修は、やはり、具体的、実践的に進めることがよいと思う。次年度の研修は、この点を重視していくことではなからうか。

(新潟大学教授)

公民館職員研修

受講者の感想

自分の殻からの脱皮

樋口 栄子

今回のように、前もって発表者が決まっていたのは非常に良かったと思います。発表者は事前に資料の用意をすることができ、演習をスムーズに進めることができました。講師が、

一緒にあって問題を考えようとしたり、適当なところで問題を投げかえしていただきましたので、内容をかなりのところで掘り下げて考えることができました。毎日仕事をしていると、とかく、自分だけの殻にこもりがちになってしまいがちです。マンネリ化してしまっています。

このような研修に参加することによって、他市町村の実態・情報を知ることができ、そのことが自分の仕事にプラスになってゆきます。同じ仕事をしている人たちと仲間にもなれました。
(新潟市中央公民館)

演習中心の

さん 余野 等

一般的に「研修」というと、講演等に最も時間をかける場合が多いようですが、今回の研修では「演習」を中心にしてすめられたので形としてはさん新なものでした。
演習内容も、各自の地域の実情等にマッチした内容だったので大変参考になりました。事業の企画・立案の基礎を学習することができました。
しかし、それ以上に夜の「情報交換」では県下の様々な市町村の現状を知ることができ、大変勉強になりました。
今回の研修では、普段の仕事の中では得られないことを手に入れることができました。これらを今後の日常業務の中で生かしていければ……と思います。
(新井市公民館南支館)

さらに地域を

見つけたい
佐藤 密夫

このたびの研修に参加させていただき、感謝申し上げます。学習プログラムを地域の実態や問題点を把握するところから作りあげていく作業は日常のプログラム作成作業の中では十分行っていないのが実態で大変役立つものであります。私はCグループの資料提供・説明役をさせていただきましたが、あらためて、地域の状況を説明しようすると、資料整備が不十分であったと痛感しております。

辛 口

昔から「遠くの親戚より近くの他人」と言われています。

すのは、近所の人とは普段の付合ですからその家庭や本人について生のままの音が聞けるからです。

しかし、最近では近所の人達から話を聞くことが難しくなってきた感じがします。

近 隣

金井 助 弘

たように思います。

私の息子は、東京に住んで十年になろうとしています。しかし、彼は同じマンションに住んでいる人と口を利いたことは殆どないと

しかし、ここに住んでいるという現実には目をそむけることは出来ないのです。そこに住んだその日から近隣の人々の関係が生まれるのです。それはベ-

(新潟県子ども会連合会会長)

自信が見えてきた

久保 静江

日ごろの勉強不足を身にしみて感じた二日間でした。それは、与えられた事だけをやってきた今まででしたから、今回の「経験」をふまえての演習では、発言力が弱く自分自身の頼りなさばかりが目につきました。仕事への積極性をかりたてられる思いがしました。

演習で考えあぐねている時に、講師の指導でとても救われました。
今回の研修で、また、情報交換で自分なりに向上のきざしが見いだされたような気がいたします。ありがとうございます。
(糸魚川市浦本公民館)

特別講義の井上先生の仕事に

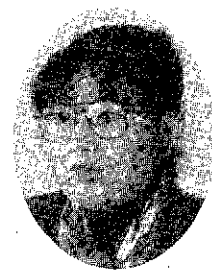
(三条市本成寺公民館)



福祉は教育によつて支えられる

——高齢者福祉の問題と公民館——

講師 井上 千津子



はじめに

寝たきりになったお年寄りや
身体の不自由な障害者のかたと
か、惚けてしまったお年寄りを
抱えたお宅のために、訪問して
生活の援助やお手伝いをするの
が私の仕事でございます。

新潟県には、私の仲間が四百
人おりますし、全国には三万人
ちょっとおります。そのくらい
の仲間がいるわけですが、寝た
きりのお年寄りは六十万、一
人暮らしの方は二百万人、惚け
てしまったお年寄りもやはり六
七十万人と推定されていますか
ら、ヘルパーの三万人程度では
焼け石に水のようなものです。

お宅へ何って、老いを支える生
活の援助をしたり介護をする
というのは、かなり私的な分野で
行なわれてきましたが、公的な
仕事として捉えられるようにな
り、一つの職業として成り立っ
たのは、老人福祉法が制定され
た昭和三十八年からございま
す。

私はヘルパーという仕事で多

くの老人と出会い、いろいろな
別れ方をしてみりました。何
人かの野辺送りにも立ち合いま
した。小さな風呂敷き包み一つ
で老人ホームへ行ったお年寄り
との別れ、親戚へ引き取られて
いったおじいさん、そうしたい
ろいろな出会いと別れ、生きざ
ま死にざまを見てきました。そ
の中から、体験を通してみなさ
んに少しでもお役に立つ話がで
きればいいなあと思っています。

老いを支える地域づくりを

人生にはいろんな時代がござ
います。古い時代は決して青
春時代のようにきらきらと輝い
た時代ではございません。しか
し、古い時代は誰にも確実に
やってきます。どんな健康な人
にも、お金のある人にも無い人
にも、社会的な地位のある人
にも無い人にも、必ずやってき
ます。そして、その人の願いや心
情には関係なく誰かの助けを借
りなければ生きてはいけなくな
ります。誰が助けるかと言え

それは、若い者であり、健康な
者であります。自分の親だから
子が看取るとか、自分の子ども
に看取られたいという実親実子
の志向ではなく、先世代を後世
代が支えていくというしくみを
社会の中に、地域の中に作り上
げなければならぬわけですね。

高齢化社会という言葉は、み
なさんも嫌というほど耳にして
いると思えますし、事実公民館
でも老後問題を取り上げ、老人
教養講座だとか、介護教室など
を実施してらっしゃるところが
増えていくようになってございま
す。今や、老人問題は、社会の
仕組みを変えていくほどの大き
な問題になっていきます。この高
齢化社会をどのように理解すれ
ばいいのかということをお話し
たいと思います。私がヘルパー
になりたての頃は、兄弟で老人
ホームに入った人が話題になっ
たものです。今は、親子で入る
ケースも珍しくなくなつて来ま
した。親も白髪なら子ども白髪で
す。川柳に「親子をろってアデ

ランス」と詠まれる時代です。
昔、人生五十年と言われた頃は、
親を子どもが看取ることはでき
ました。今は、老いた親を老
いた子どもが看る状態になつて
きました。更に、親を子どもが
看取るのに物理的にできない事
情も生じています。そこに大き
な問題が生じているわけです。
その事例を申ししましょう。

私がいつておりますお宅に93
歳のおじいさんがおり七年も寝
たきりです。70歳の息子さんと
68歳のお嫁さんが看っていたわけ
ですが、70歳の息子が倒れて病
院に入院しました。68歳のお嫁
さんは、舅と夫の二人を世話し
なければならぬ腰痛をお
こして、ヘルパーの出番となつ
たわけですね。私がいきましたら、
そのお嫁さんが「井上さん、う
ちのじいちゃんはボケてしまつ
て死ぬことも忘れてしまったか
ら思い出させてくれ」という
んです。93歳で七年ですからた
しかに長いなあと思えます。だ
からといって、「おじいさん、頃
あいのようにだけど、ぼつぼつど
うだね」とは言えませんが、そ
のおじいさんだつたたとえ全面
依存ではあつても、一生懸命生
きていらつっしゃるのです。とす
れば、その命を全うさせるため
に私どもが援助しなければなら
ないわけですね。

そのお嫁さんは、「おじいちゃ
んが長生きしているばかりに私
たちの人生設計が全部崩れてし
まった」というんです。どうい
うことかと申しますと、このお
宅に三人の子どもがおり、教育
して独立させるために田畑を全
部売つてしまいました。長男は
雪の無い暖かい地方に大きな居
を構えていらつっしゃる。68歳の
お嫁さんは「父ちゃん、定年
になつたらそこへ行つて、孫た
ちと一緒に悠々白適の生活をす
ることを夢見て一生懸命に働い
てきたのに、父ちゃんは定年
になり退職したものの、おじい
ちゃんも亡くなりぬるもの、おじ
いちゃん、行くに行けず、まごまごし
ていたら、そのお父ちゃんまで
寝込んでしまった。一体私は何
のために働いてきたのだらう」と
いうのです。じいちゃんの長
生きが全部原因しているという
のです。そこで私どもが関わる
ことになつたので、三人の子ど
もさん達に手紙を出しました。
長男の方からは「三人とも全部
こちらへ来てくれれば面倒を見
ます。私が高田へ帰つても職場
がないから帰れない」という。
二番目の息子さんは、嫁の身体
が弱くてとても介護はできない
といひます。三番目は娘さんで
あるだけに、両親のことを心配
し、私どもへの感謝とねぎらい

の言葉を書き添えてはありましたが、自分にも舅もいるし夫もいるので、一カ月くらいなら行けるが、それ以上はとも無理だという返事です。ならば、長男のところへ、と思っても、寝たきりのじいちゃん、病院行きの父ちゃんと、腰痛の母ちゃん、三人が見ず知らずの都会へ行つて暮らせると思いますが。

じいちゃんは直ぐに老人ホーム、父ちゃん母ちゃんは病院と三人がばらばらになるのは目に見えています。それなら、高田ならなぜ暮らせるのかと申しますと、長年住み慣れた土地だからです。いくら隣近所の付き合いが薄くなったとはいえ、まだまだ困ったときには何らかの援助の手が指しのべられるような付き合いがあるからです。

お年寄りには、住みなれた地域で生涯を送りたいと願っています。老人ホームはどんなに建ちますし、必要でもございます。

お宅で寝たきりでいるよりもはるかに幸せだろうと思ひ、お勤めもします。でも「あそこへ行けば帰ってこれないような気がする」「死ぬ時だけは、この家で死にたい」というのが老人の願いです。そこを皆さんもお頭の中へ入れておいてください。その願いを叶える条件が私達の住んでいる地域にあるかど

うかを考えてください。それは、社会的な施設がどれだけ整っているか、医療関係がどれほど充実しているか、教育はどうかというこの三点がきちんと地域に根づいているかどうかという事です。

福祉は教育によって
支えられる

老いを支えるための地域の条件の中で、教育の力は大きいと思ひます。しかし、それを担うはずの社会教育(公民館)ではカルチャーブームというのでしようか、健康者のみを対象にしていると思われてなりません。

また、「教育」は死をタブー視しておられますけれども、地域社会というのは、お年寄りや障害者がいるのが当たり前なんです。ですから、地域づくりに取り組むには、「死」の教育をきちんと捉えることが大切だと思ひます。その第一は、家庭の中で病人を見た事がない、死の場面に直面することがありませんから、人が死を迎えるときにその「死」を家族としてどのように捉えるか、という家庭教育が重要です。第二は、今の地域社会は、共同で困難を乗り越えていこうという共同性・連帯性が薄くなっています。老人の問題や、

障害者の問題を地域の中での共通課題として捉えることが必要です。それが社会教育の役割だと思ひます。ヘルパーは個々の家庭を救うことはできません、地域としての共通課題を取り上げることは難しいのです。社会福祉が発展するためには教育が根底になければなりません。福祉は教育によって支えられるとい



講習中のスタッフ

う所以でもあろうと思ひます。社会教育と社会福祉の関係者が、それぞれの立場で協力しあうことです。

さて、福祉の教育についてですが、知識の普及だけでは不十分です。むしろ、行動へどのように動機づけをするかがポイントではないかと思ひます。それはまた、地域のニーズを把握す

ることもありません。向こうから来るのを待つのではなく、こちらから探ってほしいのです。私はスパーマーケットで、そこへ集まる人たちの話から情報を得ています。

寝たきりの老人の枕元へ行つて聞いてみて下さい。「自分の足でトイレに行きたい」「自分の手でものを食べたい」というギリギリの願いを聞いてください。また、一方では、介護する側にも願ひのあることを知っていただきたい。寝たきり老人を抱えたが故に家族の社会性をも失ってしまう事実もあることを理解してほしいのです。

ボランティアについて

総理府の調査によると、20歳以上の30%がボランティアとして働くことを希望しているようですが、現在活動している人は7%にすぎないといっています。(昭和58年調べ)アメリカでは25%ですから大きな開きがあります。

福祉ボランティアの問題点は昔ながらの慈善活動の意識が強いことです。また、定着性に欠けること、継続性が薄く、約束を守ってくれないということなどがあります。たしかに、ボランティアというのは日発性によるものなんですけれども、社会

的なアクションをおこすわけがありませんから、責任があるのは当たり前のことなんです。したがって、ボランティアを育成する場合には、自立と連帯の地域社会をつくるための推進力になるのだという視点を持つていただき、自己満足のための、安上がりな福祉労働者づくりにならないでほしいと思ひます。

また、ボランティアを受け入れる側の条件づくりも必要になります。どんなに優秀なボランティアを育ててもそれを受け入れる側の意識を改革しないと何にもなりません。地域の実態を踏まえ、よりよい方向へ改善させていくことです。(以下紙幅の関係で割愛させていただきます。)

講師紹介

上越市社会福祉事務所

家庭奉仕員 井上千津子氏

ホームヘルパーとして在職十五年、この間日本家庭奉仕員協会会長として七年間にお

たり、全国的な在宅福祉に関わる問題解決や、ヘルパーの地位向上等に活躍。

昭和56年には、「ヘルパー奮闘記」を刊行、毎日出版文化賞を受賞。「老いを支えて」の教育映画祭賞受賞の栄に輝く方。

実践記録シリーズ

(29)

始まった国際交流活動

南イリノイ大学(新潟校)のある町

広報紙の発行が特色

中条町中央公民館

中条町は、今年五月南イリノイ大学新潟校が開校され、全国から約四五〇名の学生が入学し、仮校舎キャンパスには若者のエネルギーがみなぎっています。

交流に役立つ必要最小限の会話について学ぶ入門編として十回シリーズで夜間英会話・中国語講座の二講座を同時開催しました。

そして、アメリカの人々を中心とする教授及びスタッフの約七〇名が町に在任しております。「私も英会話をマスターして外国の人とふれあってみたい」「ビジネスに役立てたい」など公民館や南イリノイ大学の開放講座、企業が企画する英会話講座等には楽しく学ぶ英会話に関心が集り講座生として多くの人が参加しております。

当初は作付けから収穫まで、アメリカ大学の家族と一緒に企画しましたが、大学の開校準備と重なったため収穫祭のみの参加でした。この農園は、町に住む畑をもたない親子の家族や子ども会などに町有地2畝に町青年農業士の指導のもと、野菜類を栽培してきました。

わんぱく農園収穫祭

次は、公民館の国際交流事業としてとりくんでいることがらについて簡単に紹介します。

英会話・中国語講座

この講座は、日常生活や国際



わんぱく農園収穫祭のひとごころ

大学の夏休みが終わる八月十九日にアメリカの家族三十名をはじめ二五〇名が農園わきの牧草地で収穫したばかりの枝豆、サツマイモ、トウキビや豚の丸焼きで舌つづみをうちました。会場のあちこちで少量のアルコールで気をよくして、言葉の足りないところは手まねで語り

大学は作付けから収穫まで、アメリカ大学の家族と一緒に企画しましたが、大学の開校準備と重なったため収穫祭のみの参加でした。この農園は、町に住む畑をもたない親子の家族や子ども会などに町有地2畝に町青年農業士の指導のもと、野菜類を栽培してきました。

合いお互いに交流を深めあいました。

また、子どもたちは星座の見える屋外でのアニメ映画を楽しんだひとときでした。姉妹都市の縁組に同行した青年会議所のメンバーからカーボンデル市を紹介したスライドを上映してもらうなど盛り沢山の充実したプログラムは企画者も参加者もいつまでも余韻のある事業でした。

そして、この事業を成功させたのは炎天下のもとで大仕掛けな会場づくりや運営などに貢献的な活動をしてくれた農業士の方とスライドづくりをしていただいた青年会議所の熱い出合いが実ったものでした。

広報紙の発行

町民の国際理解を深める媒体として、中条に滞在している外国人の紹介や日常生活に使える簡単な英会話、中国語など身近な国際交流についてとりあげることにし、諸外国の方々ともますます理解を深める一助となればと企画しました。広報紙は町だよりの特集ページとして年四回の二ページ立てとし、企画編集にあたっては広報担当者との共同企画とした。編集内容としては、読書から興味をもって読んでいただき生活に役立つ内容として次の項目を中心とすること

にしました。

- ・日本に滞在している方に登場いただき「ふるさとを語るとともに中条の環境や情緒・特技・趣味」について語っていただく

- ・家庭で楽しみながら覚える英会話・中国語文章の一例

- ・英会話・中国語講座参加者の感想文や海外生活体験者の寄稿

- ・国際理解交流に関するプログラムの紹介

以上の内容は交流事業に参加した人や関心を持つ人だけでなく多くの町民にアメリカ大学が開校されたことを契機としてわが町の国際交流が身近な生活問題としてとらえ喚起することに役立つことができたと考えております。このページが多くの町民から関心を寄せられ激励をいただいたことから、新年度予算編成期でも「英字文コーナー」やわが国のわが家の味自慢や教育論など身近な話題」を提供し、町かどであいさつや会話が自然的に交わることができ、活発な交流活動が展開されれば幸いと考えるとともに今更ながら公民館活動の重要性と果たす役割の重さと大きさに痛感しております。

(中条町中央公民館社教主事 長野正夫記)

分館での意識調査

小千谷市千谷川分館

小千谷市公民館から、千谷川分館で実施した住民意識調査の結果報告書が届けられた。

分館が分館独自の事業として意識調査を実施し、報告書にまとめるというのは珍しいことであらう。

× × × × × × × ×

千谷川地区は、人口一、四五二人、四二二世帯。小千谷市の中心部商店街(本町通り)から僅かばかり離れた閑静な住宅地が中心である。町内には市役所もあるところで、新興の住宅地もここにあるといったところ。

人口千四百人程度の町内なら、わざわざ意識調査をしなく

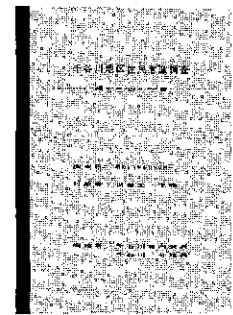
とも、といぶかるむきもあると思うが、なぜにというところである。

地区住民の待望久しかった集会所施設「千谷川クラブ」が竣工したことに伴って、その施設活用のアイデアを住民に募集することとあいまって、施設利用へ

関心を高める宣伝にねらいがあったという。さらに、加えて調査の集計結果とともに、調査「すること」「されること」によって公民館活動への啓発的役割を果たそうというねらいがあったものと思われる。

調査内容を見ると、全体として15問からなり、家庭、世帯構

問	世帯主	主婦	合計
日常生活関係で、あなたは次のどのタイプに属していると思いますか。			
ア 地域住民との連帯感情を積極的に深めようとしている。	42	23	65 (20.5)%
イ 隣人との関わりよりも、職業生活に重点をおく。	17	10	27 (8.5)
ウ 職業生活よりは、家庭生活(団らん、レクリエーション)に重点を置く。	12	17	29 (9.1)
エ 職業生活・家庭生活の両立を目指し、地域住民との連帯感情はほどほどにしている。	29	32	61 (19.2)
オ そういうことはあまり考えたことはない。	43	50	93 (29.3)



成、生活基盤に関する実態調査、自由時間の量、使途などに関する余暇利用の実態、公民館の事業に望むもの、個人と地域に係るものなど意識に関する調査などが取りあげられている。これらの中から、地域連帯の意識に関するものがあつたので、のぞいてみよう。結果は表のとおりである。

「オ、そういうことはあまり考えない。」という無関心層がダントツに多い。しかも主婦にその傾向が強いのが特色といえるのではあるまいか。千谷川地区が新興住宅地としての性格を持つている故であらう。それにしても、この地区に住みついて二年以上が八六世帯、一六年以上七〇世帯、出生以来五一世帯を合わせた二〇七世帯六五・三%の永住者がいるのを見ると少々腑におちない点がなくもない。

ともあれ、これからの公民館の事業のあり方がおのずから分かるように思えて興味深い調査結果である。
(上村記)

山北町教育委員会主事

渡辺 律子さん(26歳)

町民課に五年勤務した後、公民館勤務となって三年目。

「今は仕事が忙しくて、毎日仕事に追われていきます」

「今、担当していることは？」

「家庭教育、婦人、公民館結婚、文芸誌、図書室の仕事ですね」

「公民館結婚は、どのくらいありますか？」

「今年度は二十件くらいになりそうです。町民会館を会場に、会費



「これからは、新年度に向けて、企画の仕事に大忙し」と、若々しい、元気な声。律子がんばれ!

(村上市中央公民館社会教育主事 田嶋雄洋記)

素顔拝見

牧村公民館指導者

西山 芳子さん(40歳)

西山さんは公民館に勤めて二年。

「まず、村の自慢からお聞きすると、

「自然が素晴らしいこと。控え目な人間性」

「悩みは？」

「若い人が上越市へ出ていってしまふこと……「過疎化」です。また、村の良さであった義理人情が薄れてゆくことですね。」

「夢は？」

「活気ある村づくり。」という答えが即座にかえってきた。



西山さんは、目下、「若い人を村に定着させる」という大目標に向って、若者の交流の場づくりを力を入れている。幸いなことに、対象者の九割が入っているという青年団の強い味方を持っている。

言葉少ない応待の中に、真剣さが伝わってくる人でした。まさに村を代表するひとりの印象を受けた。

(新潟市鳥屋野地区公民館社会教育主事 伊田千代子記)

制で行っています」

「日曜日は休めますか？」

「事務所が総合体育館の中にあるので、社会体育の手伝いもしています。土曜日も忙しい。」

同級生のご主人と、満一歳になる男のお子さんがおられる。

「夜は子守りです。なるべく早く帰るようにしていますよ」と、顔がほころんだ。

「これからは、新年度に向けて、企画の仕事に大忙し」と、若々しい、元気な声。律子がんばれ!



資料紹介

同和教育資料について

県教育庁社会教育課では、毎年いくつかの指導資料を刊行し、市町村教育委員会や公民館等に配布し、その活用をすすめているところである。

今年度は、県教育委員会として「同和教育の実践」第3集を刊行することとし、現在準備を進めているところである。ここでは、その実践集に掲載される社会同和教育の内容と活用上の留意点の概要について説明したい。

1 社会同和教育のとりえ

県の同和教育基本方針では、同和教育は、人類普遍の原理である人間の自由と平等に関する基本的人権の問題である。人権を尊重する精神に貫かれた県民意識の醸成を志向する必要があると述べている。

県内の実態を見ると、同和教育及び同和教育に関する意識は徐々に高まってきているが、まだ十分とはいえない。社会同和教育の一層の推進を図るには、行政に携わる者や指導的な立場

にある者が、同和教育の必要性を正しく理解していく必要がある。

2 学習内容・方法

「同和教育はむずかしくて」という声を聞くことがある。しかしながら、毎日の生活の中にあるさまざまな差別現象等を学習課題に取り上げ、お互いの人

権を尊重し合う土壌が生まれたところで、同和教育の学習に発展させることはそれほど困難なことではない。

社会教育は学習者の自主性を基盤に成り立つものであるから、学習者の実態に合わせた内容と方法で学習を展開する必要がある。究極的には、一人一人が同和教育を自らの問題として捉え、主体的に解決に向かう態度を持つところまで高めなければならぬ。

3 実践例

P.T.A・高齢者を対象とした社会同和教育研修会の実践例を取り上げている。それぞれの事例は、映画教材を利用したり、講義を聞いたたり、話し合いを重ねたりして学習を深めたものである。さらに映画教材を使ってのフィルムフォォーラムの技法についての実践例も掲載してある。資料編の映画教材一覧と合わせて参考にしてほしい。

新潟県公民館連合会 創立40周年記念論文募集

本県公民館連合会創立40周年にあたり、原点を確かめ、21世紀にむけて公民館の価値をより高めるため、公民館の充実発展に関する実践的提言を求めるものです。奮って応募してください。

応募規定

1 内容

生涯学習社会の形成・推進に対応する公民館の在り方として、体制の整備、学習プログラムの開発、地域づくりへの対応等公民館運営の全体、または一部についての具体的な内容とする。

2 応募資格

○公民館長・職員、社会教育課・係職員で公民館運営に関係ある者。(昭和63. 4. 1以降に勤務したことのある者)専任・兼任・非常勤・嘱託等すべて差し支えない。
○個人、共同のいずれの応募も可。

3 原稿枚数

400字詰め原稿用紙10枚以内、但し図・表等資料は別添とする。別に氏名(共同の場合は代表者名)、年齢、住所、所属を明記した表紙を添付すること。

4 締め切り

平成元年10月31日

5 表彰

最優秀1名 優秀2名 佳作若干名。平成2年度に開催される第41回県公民館大会で副賞をそえて表彰の予定。

まれる。

(県社会教育主事

竹田 教記)

あとがき

一月十九日、文部省の社会教育施設費補助要求に対する、大蔵省内示のあった日。夜八時すぎに、宿舎へ内示速報がはいる。公民館補助総額は、要求額四十五億三千六百万円(百四十四分)に対し、四十五億七千五百万円(百四十一分)の内示。一瞬、三館分値切られたが補助単価が上がったのかなと思っただが、アップ分は消費税充当分ということが分かり、がっかり。翌二十日は組織的な復活要求を展開。その努力の結果ようやく満額査定実現となった。

今年度は、はらまき予算がと悪名をこうむったようだが、文教科関係には厳しかった。(上村記)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 木下 清 一

編集人 事務局長 上村 捨二郎

【定価1部 120円 千共・年販 1,440円】